

# 留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume

27

2024

# COISAN

*Council of International Student Advisors of National Universities*

国立大学留学生指導研究協議会

# 留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume

27

2024

# COISAN

*Council of International Student Advisors of National Universities*

国立大学留学生指導研究協議会

# 留学生交流・指導研究

## Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 27/ 2024

はじめに	3
<b>■ 投稿論文</b>	
<b>【研究論文】</b>	
・日本語教師による留学生観の質的データに対する経時的検討 石鍋 浩・安 龍洙	7
<b>【研究ノート】</b>	
・元留学生の定着に向けた促進・阻害要因に関する先行研究の検討 岸田由美	23
・「イメージも違ったと思いますね、想像したの留学生活と実際の留学生活は」 —大学院留学生が留学に描く期待と現実に関する一考察— 米本和弘	35
<b>【実践報告】</b>	
・演劇的手法を用いた国際共修授業の教育的効果に関する考察 —脳科学の視点を取り入れて— 中野遼子	49
投稿論文英文要旨	65
<b>■ 報告</b>	
<b>【第13回留学生交流・指導研究会報告】</b>	
研究会報告	71
研究発表1：留学生支援に求められる多文化共生とは何か —スウェーデン社会・大学の実践に学ぶこと 梁瀬まや	74
研究発表2：インターセクショナリティの概念から留学生の困難を考える —博士課程で学ぶ女子留学生に関する研究 小嶋 緑・中野遼子	76
実践報告1：大阪大学のSALCにおける日本語学習アドバイジングと 大学院生スタッフの育成 瀬井陽子・義永美央子	78
<b>【2024年度研究協議会報告】</b>	
2024年度国立大学法人留学生指導研究協議会 兼 第58回大阪大学留学生教育・支援協議会	83
読書会	87
おしゃべり会	91
付 録	93
国立大学留学生指導研究協議会 規約、令和6年度（2024年度）役員、入会案内、 入会申込書、『留学生交流・指導研究』第28号投稿規程・編集規程、 『留学生交流・指導研究』第28号投稿規程・編集規程（英文）	
編集後記	113

## はじめに

### 『留学生交流・指導研究』第27号発刊によせて

有川 友子

COISAN 代表幹事  
大阪大学国際教育交流センター

この度 COISAN（国立大学留学生指導研究協議会）発行のジャーナル『留学生交流・指導研究』第27号をお届けいたします。本号では研究論文1本、研究ノート2本、実践報告1本を掲載しています。

本号では、石鍋浩・安龍洙先生による『日本語教師による留学生観の質的データに対する経時的検討』という題目の研究論文、岸田由美先生による『元留学生の定着に向けた促進・阻害要因に関する先行研究の検討』という題目の研究ノート、米本和弘先生による『「イメージも違ったと思いますね、想像したの留学生生活と実際の留学生生活は」—大学院留学生が留学に描く期待と現実に関する一考察—』という題目による研究ノート、中野遼子先生による『演劇的手法を用いた国際共修授業の教育的効果に関する考察—脳科学の視点を取り入れて—』という題目による実践報告が掲載されています。

このほか、本号には2025年2月13—14日開催のCOISAN研究会のプログラムや、COISANが協力し2025年2月14日に大阪大学で開催された2024年度国立大学法人留学生指導研究協議会のプログラムにつきましても掲載しております。また、オンラインで実施しております「読書会」と「おしゃべり会」の報告も掲載しております。

本号発行にあたり、和田編集委員会委員長をはじめCOISANジャーナル編集委員会の皆様には大変お世話になりました。本ジャーナルは2023年からJ-Stageに公開されておりますこと、あわせてお知らせいたします。

最後になりますが、本号に投稿いただいた皆様、査読いただいた皆様、ありがとうございました。本号が皆様の留学生教育交流の研究と教育の参考となりましたら幸いです。

---

---

2024年度 留学生交流・指導  
研究会報告

---

---



## 第13回留学生交流・指導研究会報告

日時：2025年2月13日（木）・14日（金）

於：大阪大学（吹田キャンパス）ハイフレックス開催

本研究会は、COISAN 会員が日頃留学生のアドバイジング業務や留学生教育に従事する中で直面している問題について会員同士が直接顔を合わせながら、情報やノウハウを共有するとともに、留学生アドバイジングの領域に関連する教育実践、研究成果を発表する場として2013年より年1回開催している。2023年度以降は、対面、オンライン併用のハイフレックス形式で開催している。

第13回の研究会では、新たな試みとして、国立大学法人留学生指導研究協議会の前日（2月13日）及び当日（2月14日）の午前中に行った。1日目（2月13日）の午後は、会員による実践報告・研究発表の場を設けるとともに、特別講演を行った。そして、夜には参加者同士による情報交換会を行った。2日目の朝は、大阪大学工学部レジリエンス・サポートルームの見学会を行い、お昼にはランチ交流会を実施した。実践報告・研究発表、特別講演には64名（うちオンライン参加者34名）、情報交換会には17名、レジリエンス・サポートルームの見学会には12名、ランチ交流会には21名の参加があった。また、1日目の実践報告・研究発表、特別講演は有償による非会員の受け入れ、情報交換会、ランチ交流会は実費負担による非会員の参加を受入れており、実践報告・研究発表、特別講演は27名、情報交換会は5名、ランチ交流会は10名の非会員の参加があった。以下にその詳細を述べる。

1日目（2月13日）は、まず3件の会員による実践報告・研究発表から始まった。研究発表1では、梁瀬会員から「留学生支援に求められる多文化共生とは何か—スウェーデン社会・大学の実践に学ぶこと」と題して、スウェーデンにおける多文化共生に関する歴史的議論や実践についての報告が行われた。研究発表2では、小嶋会員と中野会員から「インターセクショナルリティの概念から留学生の困難を考える—博士課程で学ぶ女子留学生に関する研究」と題して、インターセクショナルリティ（交差性）の概念を用いて女性の大学院留学生が抱える困難について報告された。実践報告1では、瀬井会員と義永氏から「大阪大学のSALCにおける日本語学習アドバイジングと大学院生スタッフの育成」として、大阪大学における課外のSALC（Self-Access Learning Center：自律的な言語学習支援施設）であるOUマルチリンガルプラザにおいて実施された留学生対象の日本語学習アドバイジングおよび施設内で活動する大学院生スタッフの育成について報告された。

続く特別講演では、大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターの太刀掛俊之先生に「カルト問題を考える—学生を勧誘から守るために」と題してご講演いただいた。参加者からは、「カルトのように明らかに社会悪と思われるような集団であっても、頭ごなしに脱会を迫るのではなくて、本人が自分で判断できるように粘り強く働きかけていく必要があることが実感できた」、「とて

も詳細にカルト問題の情報をまとめていただき、相談事例まで共有いただき、問題の深刻さと、サポートの重要性を学ぶことができた」などの声が聞かれた。

夜に行われた情報交換会では、「様々な大学の先生方とざっくばらんにいろいろなお話ができた」という声が聞かれ、参加者同士の充実した情報交換の場となっていたようである。

2日目の朝は、昨年度の特別講演でお話しいただいた大阪大学大学院工学研究科の根岸和政先生の案内のもと、レジリエンス・サポートルームの見学を行った。参加者からは「説明を聞きながら自由な雰囲気で見学でき、利用者が書いたノートも読ませていただき、実際の様子をうかがい知ることができてよかった」との声が上がった。

そして、お昼にはランチ交流会を行い、和やかな雰囲気のもとで参加者同士が交流をした。参加者からは、「それぞれの大学が直面している課題について率直に話げできた」、「各先生方との交流の中で共感と気づきを得るよい機会となった」といった声が聞かれた。

## 第13回留学生交流・指導研究会プログラム

2025年2月13日(木)

### ■研究発表1「留学生支援に求められる多文化共生とは何か

—スウェーデン社会・大学の実践に学ぶこと—

梁瀬 まや(京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門 留学生相談室)

### ■研究発表2「インターセクショナリティの概念から留学生の困難を考える

—博士課程で学ぶ女子留学生に関する研究—

小嶋 緑(東北大学高度教養教育・学生支援機構)・中野 遼子(東北大学大学院歯学研究科)

### ■実践報告1「大阪大学のSALCにおける日本語学習アドバイジングと大学院生スタッフの育成」

瀬井 陽子(大阪大学国際教育交流センター)・義永美央子(大阪大学国際教育交流センター)

### ■特別講演「カルト問題を考える

—学生を勧誘から守るために—

太刀掛俊之(大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター 教授)

### ■情報交換会

2025年2月14日(金)

■大阪大学工学部レジリエンス・サポートルーム見学会

■ランチ交流会

第13回研究会企画・運営班(50音順)

伊藤健一(宮崎大学)・瀬尾匡輝(茨城大学)・園田智子(東京大学)・趙丹寧(埼玉大学)・  
中野遼子(東北大学)・村上和弘(愛媛大学)・米本和弘(東京学芸大学)

## 研究発表 1：留学生支援に求められる多文化共生とは何か

### —スウェーデン社会・大学の実践に学ぶこと

発表者：梁瀬 まや（京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門 留学生相談室）

#### 1. はじめに

複雑な世界情勢下、留学生の中には、移民・難民的背景を持った者がいる。母国政情不安を背景に持つ場合、渡日前から擁する外傷・差別体験や、家族との別離、将来への不安等が、メンタルヘルスを容易に脅かす。それらを加味した対応が求められ、日本人学生支援とは別の心得が必要となる。言語や文化葛藤に加え、何重にも交錯する負担の理解、大学がいかにかこうした留学生を支えて行くかの tips は、各社会がどう移民を受け入れ多文化共生を図ってきたかという課題とオーバーラップする。留学生数の増加だけでなく、多様性の増加が進む中、それぞれの学生が遭遇する障壁・求められる支援を理解する事は、大学にとって不可欠である。

スウェーデンは、移民に開かれた国として、長年多文化共生が実践されてきた。近年は保守路線へ転換が図られたものの、同国の実践に学ぶ点は少なくない。本発表では 2023 年及び 2024 年の同国視察に文献的考察を交えて報告した。

#### 2. スウェーデンと移民

第二次大戦後の労働移民に始まり、受入れの歴史は長い。スウェーデン中央統計局によると、最盛期の 2015 年「外国のバックグラウンドを有する者」は全人口の約 22% で、寛容と評価された移民政策は、整備が重ねられてきた。8 つの政策分野、167 の政策指標から移民政策の評価・国際比較を行う「移民統合政策指標（MIPEX: Migration Integration Policy Index）」ランキングでは、スウェーデンは 2007 年の第 2 回から 2015 年の第 4 回まで 3 回連続で最も高い総合評価を受けている。

#### 3. 視察

(1) トランスカルチュラル・センター（TC）は、1999 年ストックホルム県によりストックホルム中心部に設立された。移民・難民の背景を持つ患者と出会う医療従事者等のための知識センターとしてスタートし、文化に配慮したケアに必要な研修、当事者に対する健康情報の発信、地域社会の要請に基づき行われる教育等が、多職種チームにより実践されていた。戦争や紛争の影響を受ける難民の約 3 割が精神衛生上の課題を抱えると指摘されるが、言語・スティグマ・情報不足等、構造レベルの障壁がアクセスを妨げ、メンタルヘルスサービスの利用は一般国民よりも少なく、遅れる事が報告されている。健康診断に関わる一般医療従事者の教育（難民健康スクリーニング、拷問等に関する知識）、文化的要因が精神疾患にどのような影響を与えるか可視化する文化形成面接の検証、ヘルスコミュニケーションによる地域啓発活動、ファクトカード配布等の取組みがなされていた。

## (2) ストックホルム大学

学生健康サービスに看護師と心理カウンセラーが常駐し、予約制の個人カウンセリングが行われていた（ハラスメント・合理的配慮は別部署）。通常は3-4回で、継続ケアは学外専門家に送るが、予約は3ヶ月待ちであった。80ヶ国からなり全学生の2-3%を占める留学生は、スウェーデン人学生より相談が多く、孤独・言語など問題も多重で、地域ケアにも繋がりにくいため、4回以上となることが多い。留学生には分類されず、スウェーデン生まれでバイリンガルだが、アカデミックなライティングは困難さを持つ第2・第3世代移民の問題もあった。

## 4. おわりに

スウェーデンには、北欧の厳しい自然の中で生まれた、将来の持続可能性を意識するサステナビリティの精神がある。家族のように互いを尊重し助け合う社会モデル（「国民の家」）、社会が持続可能な発展を続ける為に福祉があり、紛争地域から庇護を求める難民の受入れは、その放置が将来の世界にサステナブルでないという歴史的価値観に沿うものだった。環境・フェミニズム運動といった少数派の文化的権利を主張する同国の民衆教育実践は、多文化共生にも活かされた。移民増加による制度的綻びはあり、政策転換されたが、同国はただ無策に破綻した訳ではない。綻びの検証が進み、受入れが社会として持続可能となれば、再び同国が別の決断を選ぶ日は来るかもしれない。日本とスウェーデンを容易には比較できないが、自国の歴史と向き合い、歴史的課題・傾きやすい価値観を知り、多文化共生に向けた社会の弱みに気づき、この社会で出来る事は何か、改めて本音で議論・検証することの重要性を認識した。

## 参考文献

Stockholm County Council (2015) 「THE TRANSCULTURAL CENTRE」 [http://dok.slsso.sll.se/TC/1\\_Start/InfobroschyrENG\\_2015web.pdf](http://dok.slsso.sll.se/TC/1_Start/InfobroschyrENG_2015web.pdf) (2025年2月12日閲覧)

McDonald JT, Dahlin M, Bäärnhielm S. (2021) "Cross-cultural training program on mental health care for refugees - a mixed method evaluation", BMC Medical Education. Vol. 21, No. 533.

## 研究発表 2：インターセクショナリティの概念から留学生の困難を考える

### —博士課程で学ぶ女子留学生に関する研究

発表者：小嶋 緑（東北大学高度教養教育・学生支援機構）

中野 遼子（東北大学大学院歯学研究所）

#### 1. 研究の概要と目的

本発表では、インターセクショナリティ（交差性）の概念を用いて女性の大学院留学生が抱える困難にアプローチする。日本において「外国人」と「女性」という二重のマイノリティ性を持つ女子留学生の経験を、特に博士学生に焦点を当て交差的に分析することで、従来の研究では捉えられなかった問題の発見への一助とすることを目指す。

#### 2. インターセクショナリティ

Crenshaw が 1989 年に提案したインターセクショナリティの概念は、コリンズ&ビルゲ（2021）では、次のように説明されている。

インターセクショナリティとは、交差する権力関係が、様々な社会にまたがる社会的関係や個人の日常的経験にどのように影響を及ぼすのかについて検討する概念。分析ツールとしてのインターセクショナリティは、とりわけ人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級、ネイション、アビリティ、エスニシティ、そして年齢など数々のカテゴリーを、相互に関係し、形成し合っているものとして捉える。インターセクショナリティは、世界や人々、そして人間関係における複雑さを理解し、説明する方法である。(p.16)

この語が広く知られるようになる前から、複合的な差別や抑圧についての研究は存在していたが、「複数の権力関係が交差しているという事実」と「その事実に着目すべきという方針」という整理（森山、2022）を参考に、まずは事実に着目することから始める。

#### 3. 先行研究

ここでは紙幅の都合により政策背景を割愛し、外国人留学生と女子学生に関する先行研究を概観する。まず、外国人留学生に関する研究は数多くなされているが、主に学部生の日本語学習や友人関係構築の困難に焦点を当てており、大学院生に関する研究は少数である。その中では、研究室コミュニティへの参加困難やアカデミックハラスメントなどが指摘されている。次に女子学生に関する先行研究では、女子中学生や高校生の、特に理工系への進路選択に関する研究は蓄積しつつあるが、理工系に進学した女子学生が大学でどのような環境に置かれているかや、女子学生が研究者の道に進む意欲を高めるような環境にあるかといった検証はまだ十分になされていない。

#### 4. 研究方法とデータ分析

本研究では、2024年6月～7月の1ヶ月半の間にX大学の全留学生を対象に実施された日英2

言語のウェブ調査のデータを参照した。約 400 件の回答うち、本研究の対象となる博士学生の回答は 162 件（母集団の 18.5%）であった。本研究では、同調査の設問の中から特に「関連性が高い」と考えられる 4 問、具体的には、[Q1] X 大学で学術・研究における平等性と多様性が推進されていると思うか、[Q2 特性や属性など（性別、国籍、言語、宗教、性自認、性的志向、障害、家庭の事情等）を理由とした次の経験の有無]-(1) いじめ・嫌がらせ、(2) 差別、(3) 学術・研究の不正行為（学術・研究倫理に違反する行為）に関わらせるような圧力、を抽出し、これらの間に対する回答に男女差があるのかを、カイ二乗検定を用いて確認した。全ての対象者の男女差の検定を行った後、文化が異なると思われる学問分野で、大学院を 3 グループ（医歯薬／人文社会科学／理工農）に分類し、グループごとの男女差を確認した。

## 5. 結果と考察

今回の調査結果からは、[Q2]-(1) の「いじめ・嫌がらせ」の経験についてのみ、男女の間で有意傾向が見られた。そのうち、医歯薬の研究科に所属する学生グループでは男女の間に 5% 水準で偏りがあり（ $\chi^2(2) = 7.04, p < .05$ ）、フィッシャーの正確確率検定でも男女の間に統計的に有意な差が認められ（ $p = .021$ ）、「わからない」を選択した女性が有意に多かった（調整済み標準化残差 = -2.45）。自由記述に関連する回答はなかった。考察として、先行研究では医学系学生の臨床実習における不当待遇などが指摘されているほか、ある歯学研究科の例では、学部学生がほぼ同率の男女比であるのに対して、教員の男女比に極端な偏りがあり、女性ロールモデルの不在や居心地の悪い環境などの、複合的な要因が考えられる。

本研究は、大学院博士課程における女性と外国人という交差性からくる困難が存在する可能性を示したが、困難の内容や要因までは特定できなかった。しかし、留学生支援にインターセクショナル리티の視点を入れる重要性が示唆された。今後は、より詳細にデザインされた調査・研究が求められる。

### 引用文献 \*紙幅の都合により一部のみ掲載

- パトリシア・ヒル・コリンズ、スルマ・ピルゲ（小原理乃訳、下地ローレンス吉孝監訳）（2021）『インターセクショナルリティ』、人文書院
- Kimberle Crenshaw (1989), "Demarginalizing the Intersection of Race and Sex: A Black Feminist Critique of Antidiscrimination Doctrine, Feminist Theory and Antiracist Politics," *University of Chicago Legal Forum*, vol.1989 (1), pp.139-167
- 森山至貴（2022）「今度はインターセクショナルリティが流行ってるんだって？」, 『現代思想』 50 (5), pp. 64-73.

## 実践報告 1：大阪大学の SALC における日本語学習アドバイジングと大学院生スタッフの育成

発表者：瀬井 陽子，義永 美央子（大阪大学国際教育交流センター）

### 1. 概要

本発表は、大阪大学における課外の SALC（Self-Access Learning Center：自律的な言語学習支援施設）である OU マルチリンガルプラザ（以下：プラザ）において実施した留学生対象の日本語学習アドバイジング（以下：アドバイジング）および施設内で活動する大学院生スタッフの育成について報告を行うものである。近年、大学において能動的学修のために集うことのできる共有スペースの利用や、課外での学びが重視されるようになった。大阪大学では、全学の学生を対象に課外での自律的な言語学習を促す施設として、2020 年 4 月にプラザを開設した。発表では、アドバイジングの概要とアドバイザーと共に施設運営を担う大学院生スタッフの活動を紹介する。そのうえで、多様な留学生のための日本語学習支援における今後の課題と展望を述べる。

### 2. プラザにおける日本語学習支援

2024 年度現在、プラザで実施している日本語の学習支援には、(1) アドバイジング、(2) 会話パートナーと 1 対 1 で話すことができる会話練習、(3) アカデミックライティングに対するアドバイスが受けられるチュータリング、(4) グループワークを通じて学習計画を立てるワークショップ、(5) グループで自由に会話や情報交換を行うサロン、の 5 つの活動がある。アドバイジング以外の活動は大学院生スタッフによる運営を教員がサポートする体制をとっている。

言語学習を支援する目的で行うアドバイジングは、対話を通して学習者の学習目標・目的・学習方法を明確にしていくもので、プラザでは事前予約制で、対面またはオンライン（Zoom）にて 40 分間 1 対 1 で行っている。利用者割合を見ると、アドバイジングの利用者は 12% で、数値として多くはないが、アドバイジングは総合窓口のような役割を果たしており、その対応事例を、会話練習やサロン、チュータリングを担当する大学院生スタッフの育成に活かしている。

### 3. 相談内容に見られる特徴

発表者らは、2020 年 6 月から 2024 年 7 月の間に実施したアドバイジングで対応した相談内容から、学習者の相談内容と日本語学習期間には傾向が見られることを明らかにした（瀬井，義永 2025）。その傾向には、大阪大学の特徴である理工系の大学院に所属する留学生が多いことや、英語学位プログラムが多く設置されていること（大阪大学 2024）も深く関わっている。相談内容を整理すると、(1) 「語学の授業」のようなものを期待して相談してくる利用者は少ない、(2) 日本語の教科書や機械翻訳では得られない情報を求めている、(3) 研究室で研究のことは質問できても「日本語のこと」は質問しづらい、(4) より生活と関わる日本の社会的・文化的知識を知りたい、(5) 「日本語の質問」という入口で相談に来るが別の問題を抱えている場合がある、と言える。日本語

以外の問題とは、健康支援センターやハラスメント相談室を紹介する必要があるケースであった。

#### 4. 大学院生スタッフの育成

プラザでは、大学院生がスタッフとしてアドバイジング以外の日本語学習支援活動に携わり、多様なニーズへの対応をしている。2024年度は、8名の大学院生が従事しており、そのうちの6名が留学生である。大学院生スタッフの所属は人文学研究科で、専門は言語文化学、教育学、日本語教育学などである。しかし、授業科目として開講されている日本語の授業とは異なり、課外のSALCという施設での活動であることから、どのように日本語学習を支援すればよいのかに戸惑う様子も見られた。そこで、学期の開始・終了時に実施していたスタッフミーティングで、アドバイジングの相談内容や対応事例を伝え、重要なことは日本語をうまく教えることではなく、利用者の話をよく聞くことであると伝えた。加えて、日々の日報や連絡用SNSで情報共有を行い、対応時に使える資料を協働で作成することにした。作成した資料には、日常表現や文法解説がわかる教材一覧、会話練習の際に参照できる話題一覧、研究計画を書く時のチェックリストなどがある。従事開始時には、語学の授業のようなものをイメージしていた大学院生スタッフ達であるが、ミーティングや資料の協働作成を通し、様々な対応事例を例に挙げて話し合うなかで、相談に来る留学生たちが必要としている情報は何か、社会的・文化的知識にはどのようなものがあるか、それをどのような形で伝えることができるかを考えるようになる様子が見られた。また、大学院生スタッフが相談者の持つ専門性から学びを得る場面も見られ、日本語でのやり取りを通して学び合いが起きていたことも明らかになった。

#### 5. まとめと今後の課題

本発表では、SALCの活動の一環として実施している日本語学習アドバイジングの相談内容から、日本語学習期間、レベル、大学での所属・専門等によって相談事項が異なること、「日本語」を入口とした様々な質問や相談に対応していることを報告した。また、これらの相談事例を施設の運営に携わる大学院生スタッフの育成に活かしていることを述べた。大学院生スタッフの育成の過程からは、日本語学習支援方法の検討だけでなく、利用者間の相互の助け合いも見られた。今後の課題としては、学習者の個々の状況に応じた対応の促進や支援方法の共有、組織や人的リソースの持続可能性を高めること、大学院生スタッフの継続的な確保と教育が挙げられる。

#### 参考文献

- 大阪大学 (2024) 「外国人留学生数」 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/outline/data/international> (2025年2月27日閲覧)
- 瀬井陽子, 義永美央子 (2025) 「言語学習アドバイジングの現場から見る留学生の日本語学習の現状と課題—OUマルチリンガルプラザの事例から—」『多文化社会と留学生交流』第29号, pp.49-57



---

---

## 2024年度 研究協議会報告

---

---



**2024 年度国立大学法人留学生指導研究協議会  
兼 第 58 回大阪大学留学生教育・支援協議会**

主 題：「留学生と日本人等一般学生の多文化共修・交流活動」

日 時：2025 年 2 月 14 日（金）13：30～17：00

場 所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階ホール（対面）・オンライン併用

次 第：（敬称略）

[総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川友子]

挨拶（13：30-13：40）

大阪大学理事・副学長 山本ベバリー・アン

I. 留学生受入れに関する施策

（対面&オンライン参加可能）

1, 説 明（13：40-14：10）

「留学生交流に係る最新状況と令和 7 年度関連予算案について」

文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付 留学生交流室 室長補佐 菊地勇次

2, 質疑応答（14：10-14：20）

[Ⅱ & Ⅲ コーディネーター：

金沢大学 理工研究域 准教授 岸田由美]

Ⅱ. 分科会「留学生と日本人等一般学生の多文化共修・交流活動」(14:30-16:00)

A: 「多文化共修・交流ー実践と学内外への展開ー」

ファシリテーター：茨城大学 全学教育機構国際教育部門 准教授 瀬尾匡輝  
信州大学 グローバル化推進センター 講師 仙石 祐

B: 「学生交流団体(組織)と大学(教職員)との関係」

ファシリテーター：東京学芸大学 教職大学院 准教授 米本和弘

C: 「留学生のネットワーキング(個人レベル)の変化と相談・支援」

ファシリテーター：大阪大学 国際教育交流センター 准教授 岡本紗知  
鹿児島大学 総合教育機構グローバルセンター 講師 市島佑起子

D: オンライン分科会

ファシリテーター：宮崎大学 国際連携機構国際連携センター 准教授 伊藤健一  
金沢大学 理工研究域 准教授 岸田由美

Ⅲ. 各分科会からの報告と全体討論 (16:00-16:50)

閉会の挨拶(16:50-17:00) 大阪大学国際教育交流センター長 有川友子

\*情報交換会: 17:30~19:00 銀杏会館2階ミネルバ

以上

---

---

## 読書会

---

---



## COISAN オンライン読書会 「ジャーナル掲載論文著者と語ろう」開催報告

担当：渡部 留美

26号掲載論文 計5本の著者を囲んでのオンライン読書会を下記の通り開催しました。

### 第19回

日時	2024年10月24日(木)
司会	渡部留美(東北大学)
語り手	田中京子(元名古屋大学)
課題論文	田中京子「国際交流アドバイザー 33年一学んだこと、学びたいこと」『留学生交流・指導研究』26号, pp.7-12.
参加者数	8人

### 第20回

日時	2024年11月14日(木)
司会	渡部留美(東北大学)
語り手	ロン・リム(元香川大学)
課題論文	ロン・リム「明日にも会いたくなる人になりたい」『留学生交流・指導研究』26号, pp.19-24.
参加者数	5人

### 第21回

日時	2024年12月2日(月)
司会	渡部留美(東北大学)
語り手	中本進一(埼玉大学)
課題論文	中本進一「私がCOISANとともに思い続けた日本流留学生アドバイザー」『留学生交流・指導研究』26号, pp.13-18.
参加者数	4人

第 22 回

日時	2025 年 3 月 12 日 (水)
司会	渡部留美 (東北大学)
語り手	太田亨 (金沢大学)
課題論文	太田亨「日韓共同理工系学部留学生事業 (日韓プログラム) キャリア追跡調査—インタビュー調査の分析を中心として—」『留学生交流・指導研究』26 号, pp.27-40.
参加者数	3 人

第 23 回

日時	2025 年 4 月 24 日 (木)
司会	渡部留美 (東北大学)
語り手	田中京子 (元名古屋大学)
課題論文	田中京子「留学生相談・支援組織の変換—13 回におよぶ改編が実践現場にもたらした影響—」『留学生交流・指導研究』26 号, pp.55-68.
参加者数	4 人

---

---

## おしゃべり会

---

---



## COISAN オンライン交流会「おしゃべり会」開催報告

担当：宇塚 万里子・岡本 紗知

COISAN では、留学生相談・支援担当者同士が大学の垣根を越えて、気軽に情報交換・交流することを目的に、オンライン交流会を毎月 1 回、開催しています。

新しく留学生担当になって困っている方もベテランの方も昨今のグローバル化台風の中でいろいろな経験や苦勞をされていると思います。リソースが不足しがちな留学生関連業務で孤軍奮闘されている方も少なくないでしょう。そんなときは少し一休み、オンライン交流しませんか？他大学の例を聞くと、参考になったり、励まされたり、或いは、「へー、そなんだ。知らなかった。」など。入退室時間も、もちろん自由です。

テーマは、参加者の持ち寄ったその時々話題を話すフリートークの回とゲストスピーカーを招いたトピック型の回を交互に行っています。

開催日	トピック	参加者数
2024 年 4 月 25 日 (木)	地域連携プログラム・留学生向け授業・留学生対応教職員のトラブル	5 名
2024 年 5 月 22 日 (水)	GW 後の留学生のしんどさ・住民と騒音問題・近隣小中高との連携プログラム	6 名
2024 年 6 月 26 日 (水)	引きこもりについて (音信不通と安否確認・対応の必要性・誰が対応すべきか)	7 名
2024 年 7 月 24 日 (水)	(前回の継続)引きこもりについて(対応する人の専門性)国際共修科目・障害を抱えた学生の受け入れ	4 名
2024 年 8 月 28 日 (水)	大学が休み期間の間の相談支援 (自動車事故対応・在留期間と在籍期間)	5 名
2024 年 9 月 25 日 (水)	留学生会与大学との関係・部活やサークルと留学生	6 名
2024 年 10 月 31 日 (木)	「留学生受け入れ直後に気をつけた方が良いこと」 ゲストスピーカー：渡部先生	8 名
2024 年 11 月 27 日 (水)	授業料免除・奨学金	3 名
2024 年 12 月 19 日 (木)	「入国後 3 ヶ月以降の学生相談・支援のポイント」 ゲストスピーカー：大西先生	7 名
2025 年 1 月 29 日 (水)	(参加者なしでキャンセル)	0 名
2025 年 2 月 27 日 (木)	「休暇期間中の学生支援について」 ゲストスピーカー：中本先生	6 名



# 付 録



**国立大学留学生指導研究協議会**  
**COISAN**  
**Council of International Student Advisors of National Universities**

設 立 : 1996 年 5 月

設立の経緯 : 1990 年より国立大学に留学生センターが設置され始めました。これに伴い、留学生に対する相談・指導を担当する教員有志が、大学の枠を超えて相互に情報や意見を交換するとともに、留学生に関する研究を推進する必要性を痛感し、本協議会を設立するに至りました。

主 な 活 動 : 1. 研究会、セミナーの開催  
2. 会誌『留学生交流・指導研究』の発行（毎年 1 回。研究機関誌として発行）  
3. 会員名簿の作成  
4. 総会の開催  
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

U R L : <https://coisan.org>

会 員 : 下記のように正会員と一般会員があります。どなたでも入会できます。

- (1) 正 会 員・・・国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わり、これらに関連する領域における研究を推進する方が正会員とすることができます。非常勤講師、相談員等を含みます。
- (2) 一般会員・・・これ以外の方（学生や私立大学教職員等）も一般会員として入会し、投稿することができます。

入 会 : 後掲（100 ページ）

投 稿 : 後掲（102 ページ）

連 絡 先 : 〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1 IC ホール 2F  
大阪大学国際教育交流センター IRIS（留学生交流情報室）内  
国立大学留学生指導研究協議会 事務局（担当 山岸美穂）  
電話番号 : 06-6879-7076 E-mail : [info@coisan.org](mailto:info@coisan.org)

\*各地区の幹事が、地区ごとの取りまとめの役割を果たしています。詳細は COISAN 組織（92 ページ）をご参照ください。

**国立大学留学生指導研究協議会 規約**  
**Council of International Student Advisors of National Universities**  
**(略称 COISAN)**

---

1. 名 称 本会は、国立大学留学生指導研究協議会（英語名：Council of International Student Advisors of National Universities、略称：COISAN）と称する。
2. 事務局 本会は、主たる事務局を大阪府吹田市に置く。事務局の業務規程は別途定める。
3. 目 的 国立大学法人等における留学生教育・指導にかかわる諸問題について、情報・意見交換を行うとともに、これらに関する研究を推進することを通じて日本と海外諸国間の留学交流の促進と質的向上を図ることを目的とする。
4. 事 業 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
  - (1) 研究会、セミナー等の開催
  - (2) 『留学生交流・指導研究』の発行
  - (3) 会員名簿の発行
  - (4) 総会の開催
  - (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業
5. 会 員
  - (1) 会員の種類と資格及び会費年額  
本会は正会員と一般会員、及び特別会員により構成する。
    - 1) 正会員は、次のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた者とする。
      - ①国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わる者（非常勤講師、相談員等を含む）で、これらに関連する領域における研究を推進する者
      - ②本会の運営及び活動への参画の意志のある者
      - ③メーリングリストを介した情報・意見交換に参加する者
      - ④正会員 1 名の推薦を受けた者
      - ⑤会費年額 7,000 円を納める者
    - 2) 一般会員は、次の①～③のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた学生、教職員、研究者等とする。
      - ① 5.-(1)-1)- ①に記載の資格を有しない者で、本会の趣旨に賛同し、本会の活動への参加を希望する者
      - ②本会正会員 1 名の推薦を受ける者
      - ③会費年額 7,000 円を納める者
    - 3) 特別会員は、幹事会により特に必要と認められた者とする。会費等は別途定める。

---

4) シニア会員は、次の①～③のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた者とする。ただし、シニア会員は幹事として本会の運営に関わることはできない。

①大学を退職し、常勤職についていない者

② 55 歳以上の者

③ COISAN 会員として 10 年以上在籍した者

④本会の趣旨に賛同し、本会の活動への参加を希望する者

⑤会費年額 3,000 円もしくは、5,000 円（ジャーナル冊子送付者）を納める者

## (2) 入 会

本会への入会は、幹事会の議を経て代表幹事が承認しなければならない。

## (3) 退 会

次の事項に該当する場合、幹事会の議を経て、代表幹事は当該会員を退会とすることができる。

1) 本人から退会の申し出があった時

2) 会費が未納である時

3) 本会の趣旨に著しく違反した時

## 6. 組織・運営

### (1) 組 織

本会には、幹事会及び編集委員会を置く。

1) 幹事会は、地区幹事、特別幹事、監事、及び編集委員長で構成する。幹事会には代表幹事 1 名、副代表幹事 1 名以上を置く。

2) 編集委員会は、編集委員長 1 名及び編集委員で構成する。副委員長を置くことができる。

3) 代表幹事、副代表幹事、幹事、監事、及び編集委員長は総会において正会員の中から選出され、その任期は 2 年とする。但し、原則として継続 2 期を限度として、再任を妨げない。任期年度は 7 月 1 日から翌年 6 月末日までとする。

### (2) 運 営

本会は年 1 回の総会を開催する。総会は正会員で構成し、役員の選出、活動計画、予算等本会運営にかかわる諸事項を決定する。

本会の運営は総会の決定に基づき、幹事会が行う。

代表幹事は会の運営を統括するとともに本会の代表となる。幹事はそれぞれ分担して本会の運営に当たる。

シニア会員は、幹事として本会の運営に関わることはできない。

編集委員長は幹事会の決定に基づき編集委員会を組織し、研究機関誌の発行の企画・発刊に当たる。

本会の会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月末日までとする。

7. 規約の改正
- 本規約は 1996 年 5 月 24 日をもって発行する。
- 1997 年 6 月 6 日 一部改正
  - 1999 年 6 月 11 日 一部改正
  - 2005 年 3 月 11 日 一部改正
  - 2007 年 6 月 21 日 一部改正
  - 2012 年 6 月 22 日 一部改正
  - 2018 年 6 月 26 日 一部改正
  - 2019 年 7 月 11 日 一部改正
  - 2023 年 6 月 30 日 一部改正
  - 2024 年 6 月 27 日 一部改正

## 令和6年度(2024年度)役員

---

- ◆代表幹事 有川 友子〈大阪大学〉(歴代代表幹事)
- ◆副代表幹事 渡部 留美〈東北大学(新)〉  
宇塚 万里子〈岡山大学〉
- ◆地区幹事 北海道・東北地区 瀧田 典子〈秋田大学〉  
関東地区 米本 和弘〈東京学芸大学〉  
関東地区 趙 丹寧〈埼玉大学(新)〉  
中部地区 仙石 祐〈信州大学(新)〉  
中部地区 伊藤 孝恵〈山梨大学(新)〉  
近畿地区 梁瀬 まや〈京都大学(新)〉  
近畿地区 岡本 紗知〈大阪大学〉  
中国・四国地区 村上 和弘〈愛媛大学〉  
九州・沖縄地区 伊藤 健一〈宮崎大学〉
- ◆特別幹事 有川 友子〈大阪大学〉(代表幹事)  
渡部 留美〈東北大学〉(副代表幹事)  
宇塚 万里子〈岡山大学〉(副代表幹事)  
瀬尾 匡輝〈茨城大学(新)〉(HP担当幹事研究会担当幹事)  
市島 佑起子〈鹿児島大学〉(コミュニケーション担当幹事)
- ◆監 事 岸田 由美〈金沢大学(新)〉  
服部 明子〈三重大学(新)〉
- ◆編集委員長 和田 尚子〈名古屋大学〉
- ◆歴代代表幹事
- |                 |       |            |
|-----------------|-------|------------|
| 2020年7月～2022年6月 | 中本 進一 | 埼玉大学教授     |
| 2016年7月～2020年6月 | 安 龍洙  | 茨城大学教授     |
| 2012年7月～2016年6月 | 有川 友子 | 大阪大学教授     |
| 2008年7月～2012年6月 | 門倉 正美 | 横浜国立大学名誉教授 |
| 2006年7月～2008年6月 | 瀬口 郁子 | 神戸大学名誉教授   |
| 2002年7月～2006年6月 | 檜原 暁  | 元東京大学教授    |
| 2000年7月～2002年6月 | 三宅 政子 | 元名古屋大学教授   |
| 1996年5月～2000年6月 | 古城 紀雄 | 大阪大学名誉教授   |

## 入 会 案 内

---

〈1〉 入会希望者は、入会申込書に必要事項を記入の上、入会申込をメールで事務局 (info@coisan.org) にお送りください。

\*入会には、本会正会員 1 名の推薦が必要となります。

〈2〉 入会が受理されると、その旨通知されます。

\*手続き書類を送りますので、年会費 7,000 円をお納めください。

〈3〉 入会者には最新の機関誌などの資料が送付されます。

〈4〉 以降、機関誌への投稿案内、総会、研究会などについては、電子メール及び国立大学留学生指導研究協議会のホームページでお知らせします。機関誌は、郵送で送付されます。



## 『留学生交流・指導研究』第28号投稿規程

### 〈投稿資格〉

1. 本誌に投稿できる者は、国立大学留学生指導研究協議会の会員でなければならない。なお、共著者に非会員を含むことはできるが、第一筆者は国立大学留学生指導研究協議会の会員とする。ただし、編集委員会が特に行う原稿執筆依頼は、非会員に対しても行うことができるものとする。また、同一著者による投稿の掲載が連続する場合は、原則連続2回を限度とする。

### 〈投稿内容、使用言語、投稿種目〉

2. 投稿内容：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野に関するもので、未発表のものに限る。他の学会誌などへの重複投稿はしないこと。ただし、口頭発表、プリント類はその限りではない。
3. 使用言語：日本語または英語。投稿者の原稿の言語が母語と異なる場合、提出原稿はネイティブチェック済みであること。
4. 投稿の種目を以下のとおりとする。投稿者は原稿に種目を明示しなければならない。
  - 1) 研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。
  - 2) 研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。
  - 3) 実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。
  - 4) 書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。
  - 5) その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

### 〈倫理ガイドライン〉

5. 投稿に際しては以下の倫理を守ること。
  - 1) 研究の実施および研究成果の公表について、調査対象者に説明し、同意を得ている。
  - 2) 個人のプライバシーに配慮し、個人情報特定・類推されることがないように、細心の注意を払うこと。また、可能な限り、論文公表の同意を得ること。
  - 3) 特定の機関を対象とした研究では、該当機関の長に論文公表についての同意を得ること。
  - 4) 倫理的な配慮を行っていることを本文中に明記すること。

〈原稿〉

6. 書式：A4 横書き、和文 43 字×30 行（英文 44 行）とし、ファイル形式は PDF ファイルとする。カラーの図、表、写真などは、あらかじめグレースケールに変換すること。
7. 分量：編集委員会が特に指定した場合を除き、研究論文、研究ノート、実践・調査報告は 15 ページ以内（図、表、写真などを含める、要旨は除く）、書評は 2 ページ以内とする。書評は冒頭に、①書名、②著者名、③出版社名、④出版年、⑤頁数、⑥定価、⑦氏名、⑧所属を示す。洋書の場合も和書に準じるが、書名はイタリック体で示すこと。
8. 要旨・キーワード：研究論文、研究ノート、実践報告・調査報告においては、日本語の場合 400 字程度、英語の場合 200 語程度の要旨を添付し、5 つ以内でキーワードを添付する。なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。
9. 本文中の固有名詞：執筆者が特定される地名や大学名等は、伏せ字（例：A 県、 $\alpha$  大学）にして記すること。なお、原稿の内容上必要不可欠な地名や大学名等は、編集委員会で審議し査読後、倫理ガイドラインを守った上で実名での表記を認める場合もある。
10. 本文中の引用元の表記：著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする（例：加賀美・横田・坪井・工藤（2012））。ただし、同じ文献の引用が複数回ある場合の文中引用では、初出の際は全著者の姓を記し、2 回目以降の引用では第 3 著者までの姓のみ記載し、他の著者は他として省略することとする（例：加賀美・横田・坪井他（2012））。
11. 引用・参考文献は項目を別に設け、本文中で言及したものが過不足なく記されていること。一覧を文末にまとめ、和文単行本の場合は：著者名（刊行年）『書名』発行書店名とし、洋書単行本の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）Title イタリック体、Publisher とする。和雑誌の場合は：著者名（刊行年）「表題」『雑誌名』巻数号数、ページの始めと終わりとし、洋雑誌の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）“Title”, Journal title イタリック体, Volume, Number, Pages とする。ウェブサイトからの引用資料の場合は：資料提供機関等（掲載年）「タイトル」URL（閲覧日）とする。

著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする。日本語文献と外国語文献とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献の順に記載し、日本語文献は第一著者の姓の五十音順に、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。日本語訳書を引用した場合は、日本語文献にまとめる。ウェブサイトからの引用資料は、日本語のサイトを日本語文献にまとめ、外国語のサイトを外国語文献にまとめる。

なお、執筆者自身の文献を引用する際に、「拙書」「拙稿」など執筆者が特定される表現を避けること。伏せ字は使用しないこと。

例) [引用・参考文献]

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別—形成のメカニズムと低減のための教育—』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第 15 巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」<http://www.nisshinkyoo.org/j147>.

pdf (2016年12月20日閲覧)

ホール・エドワード (日高敏隆・佐藤信行訳) (1970) 『かくれた次元』 みすず書房 (Hall, E. (1966) *The Hidden Dimension*, Anchor Books)

Piller I (2010) *Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press

Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J (2010) "Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research", *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251

Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J (2008) "Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education", *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈投稿の採否〉

12. 投稿原稿掲載の採否は、種目 1) ~ 3) については、査読を経て、編集委員会で審議し、種目 4) 5) については、編集委員会で審議し、決定する。審議の結果、内容、構成、表現等が不適切と判断された場合は、投稿者へ原稿の修正および投稿種目の変更を依頼する場合がある。

〈校正〉

13. 投稿者による校正は初稿までとする。校正においては、内容的な修正は原則として認めない。

〈著作権〉

14. 『留学生交流・指導研究』に掲載された原稿の著作権は、国立大学留学生指導研究協議会に属するものとする。著者は、掲載された論文の電子化とその公開を承諾するものとする。

〈抜刷り〉

15. 抜刷りを希望する投稿者は、完成原稿提出時に編集委員長が指定した方法に従う。抜刷りに要する費用は、投稿者が全額負担する。

〈投稿申込み、原稿締切〉

16. 投稿予定者は毎年7月15日までに表題および投稿種目を明示して、編集委員長あてに e-mail で投稿を申し込むこと。その上で、毎年8月31日までに原稿 (PDF ファイル)・投稿連絡票・投稿チェックリストを添付し、編集委員長あてに e-mail で送信すること。投稿連絡票および投稿チェックリスト、論文の書式は、国立大学留学生指導研究協議会のホームページよりダウンロードして使用する。

なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。また、PDF ファイルのプロパティなどに投稿者の個人情報が残らないよう注意すること。

(国立大学留学生指導研究協議会ホームページ)

<https://www.coisan.net/>

〈投稿申込み先、原稿送付先〉

e-mail : wada.hisako.w3@f.mail.nagoya-u.ac.jp

(COISAN ジャーナル編集委員長 和田)

## 『留学生交流・指導研究』編集規程

---

### 〈名 称〉

1. 本誌は国立大学留学生指導研究協議会（以下「COISAN」と称す）機関誌であり、原則として年一回発行する。

### 〈掲載記事の種別〉

2. 本誌は留学生指導及び国際教育交流にかかわる研究論文、実践報告・調査報告、書評、その他関連記事を掲載する。

それぞれの内容については以下のとおりとする。

- 1) 研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。
- 2) 研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。
- 3) 実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。
- 4) 書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。
- 5) その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

### 〈採否の決定〉

3. 前条1)～3)項の投稿原稿の掲載の採否は、審査委員会の査読を経て、編集委員会で審議し決定する。4)、5)については、編集委員会で審議し決定する。

### 〈校 正〉

4. 執筆者による校正は初稿までとする。その場合、内容的な修正は原則的に認めない。

### 〈抜き刷り〉

5. 抜き刷りを希望する投稿者は完成原稿提出時に編集委員長に依頼する。抜き刷りに要する費用は投稿者が全額負担する。

以上

# Journal of International Student Advisors and Educators

## No. 28 Posting Regulations

### 〈Qualification for Posting〉

---

1. Those who post this Journal must be members of the Council of International Student Advisors of National Universities. Non-members can be included as co-authors, but the primary author must be a member of the Council of International Student Advisors of National Universities.

However, manuscript orders, especially by the editorial committee, can be ordered for non-members. Consecutive posts by the same author are limited to 2 posts under normal circumstances.

### 〈Contents Posted, Languages Used, Categories〉

---

2. Content Posted:

Content posted must be related to Advice to International Students, International Education Exchange or their related fields, and must be as-of-yet-unannounced. Duplicate postings to other academic conference journals are prohibited, provided that oral presentations and handouts are not limited to this.

3. Languages Used:

Japanese or English. When the languages of posters' manuscripts are different from their native languages, the submitted manuscripts must be checked by a native speaker.

4. The categories to be posted are as follows. Posters must clearly describe the categories of their manuscripts.

- 1) Research Article:

The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.

- 2) Research Note:

In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.

- 3) Practice Report/Research Report:

In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and

International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields, Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.

4) A Book Review:

A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.

5) Others:

Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions, lectures, etc.)

〈Ethic Guidelines〉

---

5. Observe the following ethics when posting.

- 1) Explain your procedure to research subjects and obtain their consent regarding implementation of research and publication of results.
- 2) Take due consideration for personal privacy and pay careful attention so that personal information cannot be identified or inferred. Prior to publication, obtain consent from parties involved as much as possible.
- 3) For research targeting specific institutions, obtain consent from the head(s) of those institutions prior to publication.
- 4) Clearly state on your manuscripts that ethical consideration has been taken.

〈Manuscripts〉

---

6. Format:

A4 Horizontal writing

Japanese characters 43x30 lines (English 44 lines)

File format: PDF file

Colored figures, lists and pictures will be converted to grayscale.

7. Volume:

The Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports must be under 15 pages (including figures, lists, pictures, etc.; excluding the abstract), and Book Reviews under 2 pages, except when designated by the editorial committee. At the beginning of a book review, indicate 1. Book title, 2. Author's name, 3. Publisher's name 4. Year of publication, 5. No. of pages, 6. Fixed price, 7. Reviewer's name 8. Reviewer's university. The same is applied to Western books, but titles must be written in italics.

8. Summary/Keywords:

Attach a summary of about 400 characters for Japanese and about 200 words for English to Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports. Also Attach 5 or less keywords. Write summaries only on the post contact form but not on the manuscript.

9. Proper nouns in the manuscript: Names of places or universities that could possibly specify the author must be substituted with letters/symbols (e.g., prefecture A, university  $\alpha$ ). However, in some cases such that the use of proper nouns is unavoidable given the content of the manuscript, after proper deliberation and peer review by the editorial committee, the use of real names may be permitted in accordance with the ethical guidelines.

10. Citations: All the authors' names must be listed (example: Kagami, Yokota, Tsuboi, Kudo (2012)) regardless of the number of the authors. However, if the same document source is cited more than once, the surnames of ALL authors must be listed ONLY when they first appear, and only the surnames up to the third author are listed in the second and subsequent citations, the rest of authors being omitted. (Example: Kagami, Yokota, Tsuboi et al. (2012)).

11. Quotations and reference items are separately listed. All quotations and references used in the manuscript must be included in the list, without excess or deficiency, in the following orders.

The lists are summarized at the end of the manuscript.

Single Japanese research books: Write the Author's name (Publication year), 『Book title』 and Issuing bookstore's name.

Single Western research books: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), 'Title', and Publisher.

Japanese journals: Author's name, (publication year), 「Title」, 『Name of journal』, Issue no., Relevant pages.

Western journals: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), 'Title', *Journal title*, Volume, Number, Pages.

In the case of materials quoted from a website, include the name of the source, (year of posting), 「Title」, URL, (Date of access).

All the authors' names must be listed regardless of the number of the authors. Summarize Japanese and foreign literatures, respectively, and list them in the order of first Japanese and then foreign literature. Japanese literature is arranged in the Japanese alphabetical order by the surnames of the primary authors, and foreign literature is in the alphabetical order by the surnames of the primary authors. When a translation into Japanese is quoted, summarize it as Japanese literature. When materials are quoted from websites, summarize the material quoted from Japanese websites as Japanese literature and from foreign sites as foreign literature, respectively.

Avoid using phrases like 'my research book' or 'my research manuscript' when quoting from a

writer's own literature in order to avoid revealing the author's identity. Do not use ciphers.

Example

[Quotation/Reference Literature]

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別—形成のメカニズムと低減のための教育—』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第15巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」

<http://www.nisshinkyō.org/j147.pdf>（2016年12月20日閲覧）

ホール・エドワード（日高敏隆・佐藤信行訳）（1970）『かくれた次元』みすず書房

（Hall, E. (1966) *The Hidden Dimension*, Anchor Books)

Piller I (2010) *Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press

Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J (2010) "Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research", *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251

Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J (2008) "Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education", *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈Acceptance or Rejection of Posts〉

12. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the editorial committee after peer review for categories 1) -3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).

As a result of deliberation, if it is determined that contents, structure, expressions etc. are inappropriate, posters may be requested to make corrections and/or change their category.

〈Proofreading〉

13. Proofreading by a poster is limited to the first draft. After the proofreading, content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Copyrights〉

14. Copyrights of the manuscripts published on the Journal of International Student Advisors and Educators belong to Council of International Student Advisors of National Universities. By publishing in the journal, authors agree to allow COISAN to publish their article online.

〈Offprint〉

15. Posters who wish to offprint shall follow the method designated by the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

〈Posting Application and Manuscript Deadline Dates〉

16. Those who plan to post should apply to the chief editor by e-mail, clearly stating their titles

and posting categories by July 15<sup>th</sup> of that year.

Then send their manuscripts (in PDF format), posting contact forms and posting check lists to the chief editor via email by August 31<sup>st</sup>. Download the posting contact form, posting check list and format from the homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities.

Write the summary only on the posting contact form, but not on the manuscripts. Be careful not to leave the poster's personal information on the PDF properties, etc.

(Homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities)

<https://www.coisan.net/>

〈Where to apply postings to/ Where manuscripts are sent to〉 \_\_\_\_\_

e-mail: [wada.hisako.w3@f.mail.nagoya-u.ac.jp](mailto:wada.hisako.w3@f.mail.nagoya-u.ac.jp)

(Professor WADA, Chief Editor of the Journal of COISAN)

## Editing Regulations for 『Journal of International Student Advisors and Educators』

---

### 〈Name〉

1. This journal is the Journal of International Student Advisors and Educators (hereinafter referred to as 'COISAN'), and is published once a year under normal circumstances.

### 〈Categories of Articles Published〉

2. The Research Articles, Practical Reports, Research Reports, Book Reviews and others related to Advice for International Students and International Exchange are published in the Journal. Each content is as follows.

- 1) Research Article:

The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.

- 2) Research Note:

In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.

- 3) Practice Report/Research Report:

In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields. Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.

- 4) A Book Review:

A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.

- 5) Others:

Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions,

lectures, etc.)

〈Decision of Acceptance and Reject〉

3. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the editorial committee after peer review for categories 1) -3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).

〈Proofreading〉

4. Proofreading by a poster is limited to the first draft. Content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Offprint〉

5. Posters who wish to offprint shall request the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

## 編集後記

国立大学留学生指導研究協議会 (COISAN) のジャーナル『留学生交流・指導研究』第27号には、研究論文1本、研究ノート2本、そして実践報告1本が収録されています。日本語教師の留学生観に焦点を当てたもの、元留学生の定着に向けた促進・阻害要因に関する研究をレビューするもの、大学院留学生が日本留学に抱く期待と現実から留学生受け入れの現状と課題の視座を提示するもの、そして演劇的手法を用いた国際共修授業の教育的効果を分析したものと、多岐に渡る内容となっており、COISAN会員の多様なバックグラウンドが反映されています。

また本ジャーナルには年2回の研究協議会の記録も掲載されています。本ジャーナルが、ピアレビューを経た良質な研究成果の発表の場であるだけでなく、本会の様々な活動に関する情報のアーカイブであってほしいと念じております。

末筆ではありますが、研究成果をまとめてご投稿いただいた皆様、またご多忙の中査読を引き受けてくださった皆様に御礼申し上げます。引き続き皆様のご投稿をお待ち申し上げます。(仙石)

ISSN1343-4683

### 留学生交流・指導研究 Volume 27

非売品

編集 国立大学留学生指導研究協議会  
『留学生交流・指導研究』編集委員会  
和田 尚子 (委員長：名古屋大学)、大塚 薫 (高知大学)、河合 淳子 (京都大学)、  
仙石 祐 (信州大学)、服部 明子 (三重大学)、堀尾 佳以 (宇都宮大学)

発行日 2025年3月31日

発行 国立大学留学生指導研究協議会

問合せ先 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 ICホール  
大阪大学国際教育交流センター IRIS (留学生交流情報室) 内  
Tel : 06-6879-7076 Fax : 06-6879-7119  
e-mail : info@coisan.org

URL <https://coisan.org/>

制作 株式会社 コームラ e-mail : main@kohmura.co.jp

# Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 27 / 2024

Foreword	ARIKAWA Tomoko	3
■ Articles		
[Research Article]		
· A Longitudinal Qualitative Study About The Perceptions To The International Students By The Japanese Teachers	ISHINABE Hiroshi, AN Young Su	7
[Research Note]		
· A Review of Previous Studies on Factors Influencing the Retention of Former International Students in Japan	KISHIDA Yumi	23
· “I Think There Was a Gap Between What I Imagined Student Life Abroad Would be Like and the Reality”: An International Graduate Student’s Expectations and Realities of Studying in Japan	YONEMOTO Kazuhiro	35
[Practice Report]		
· On the Educational Effectiveness of an International Collaborative Learning Course Using Theatrical Methods: Insights from a Neuroscientific Perspective	NAKANO Ryoko	49
Summary in English		65
■ Report		
[Report on the 13 <sup>th</sup> COISAN Research Conference]		
· What is Multiculturalism required for supporting international students - Learning from the practices of Swedish society and universities	YANASE Maya	74
· The international students’ difficulties from the perspective of intersectionality - A study of female international students studying in doctoral programmes	KOJIMA Midori, NAKANO Ryoko	76
· Japanese language learning advising and graduate student staff development at SALC, Osaka University	SEI Yoko, YOSHINAGA Mioko	78
Report of COISAN Symposium 2024		83
Online Reading Sesseion		87
Online Talk Session		91
APPENDIX		93
The Editor’s Note		113